

## I. これまでの経緯と今後の計画

旧川復元対策に関する調査・検討は、平成 11 年度から行われており、平成 13 年 3 月には「釧路湿原の河川環境保全に関する提言」(以下、「提言」と称す。)がまとめられた。

平成 15 年 11 月には「釧路湿原自然再生協議会」が発足し、これまでに協議会が 6 回、旧川復元小委員会が 3 回開催されている。

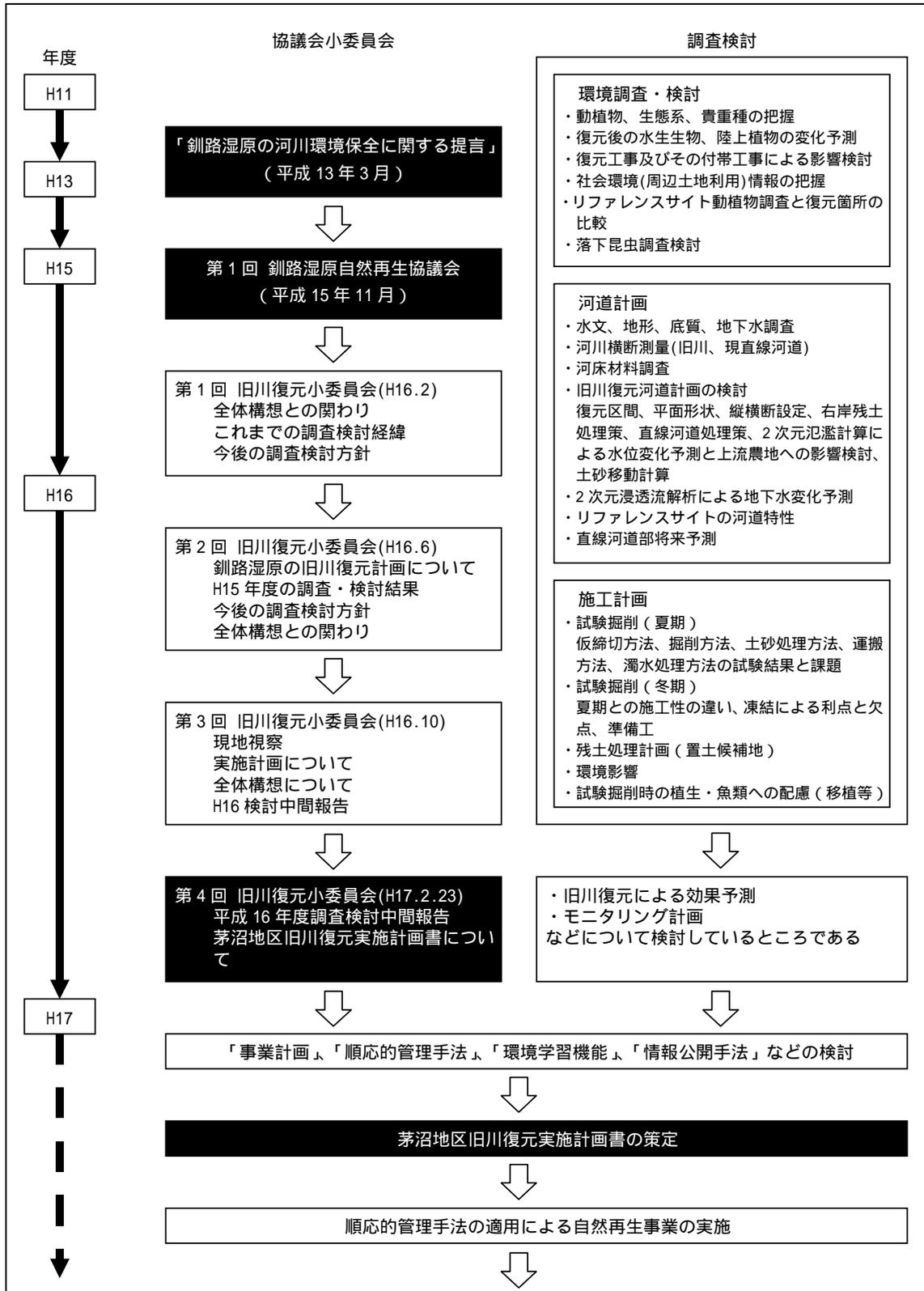


図 I-1 旧川復元計画に関するこれまでの経緯と今後の計画

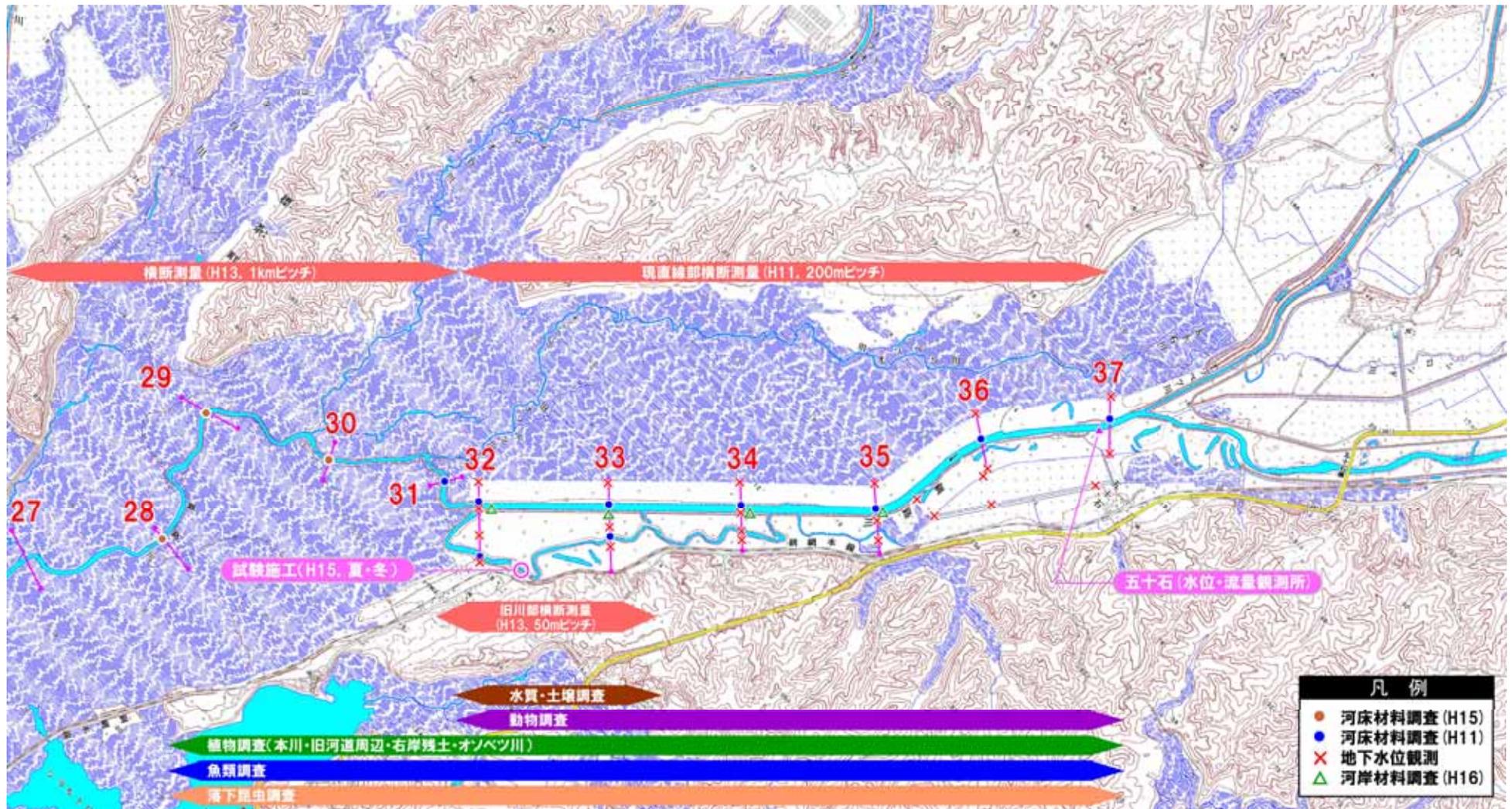


図 1-2 既往調査位置と主な検討成果

## 釧路湿原自然再生全体構想（案）に対する意見について

パブリックコメント（12月18日～1月17日）の結果から、実施計画を策定していく上で特に参考とすべき意見概要（抜粋）を下記に示します。

全意見については、第6回協議会資料を参照してください。

### 第1章～第4章及び全般について

第2章で、……実際に「自然再生」を行う現場での「具体的な手法」について触れられていません。……工事方法について、イラストなどでもっとハッキリ詳しく説明していただきたいと思います。……

自然再生実施のプロセスとして、現況調査等による生態系の劣化状況を評価したうえで、劣化原因・メカニズムをできるだけ究明し、原因排除或いは緩和の方策案を提示する、ということが含まれていた方が良いように感じました。……悪い要素を見つけ出し取り除くことで結果的に元の環境へそして元の生態系へ近づけてやる、といったフレーズが広域生態系再生をうたう全体構想には重要かと考えました。

情報の公開について、計画、実施内容、評価と検討の過程の透明性の確保をうたっているが、これに加え、費用対効果についても透明性を確保すべきと考えている。

この構想の実行にあたっては、協議会に参加した民・団体・学・官がそれぞれ積極的に取り組むとともに、連携していくことが重要なことと思います。特に地域で活動している方々が中心となり進めること、住民の方々に対して細やかな心配りをしながら協力を得ることが持続性に繋がり、自然再生のような長期間に亘る事業を成功に導くと考えます。

農業者が湿原再生に協力できる体制づくりをする事が必要です。……放棄された優良な畑がいたるところにある。昭和40年代、さかんに行われた農地の交換をやれば良いと考えます。……湿原再生も流域全体を範囲に入れているのであるから、もっと広範囲に考えて良いのです。

既に実行されている再生事業もあると思います。この事業も改めて数値的目標が設定しているかどうか、はっきりしてください。5年ごと・10年ごと（施策の見直し）はちょっと長いではありませんか。「緊急に対応」する必要があると判断するメカニズムをはっきりする必要があるではないでしょうか。

課題や目標を設定する過程は、現状把握（調査） 解析 目標設定 制限要因の設定 仮説の検証（順応的管理） 保全計画 モニタリングとなると考えます。その点で、第5章の構成は、（1）現況と課題の記述内容がほとんど現況だけに限られ、まったく不十分です。……

……具体的な個別事業の段階が最も注意を必要とするステップなのかも知れません。「全体構想」をどう活用していくのかが見えないまま、いろいろな要素を盛り込まざるを得なかったというのは、構想案を練る段階で努力をされた方々の責任ではなく、もっと大きな枠組みの問題かと思っています。しかしながら、今後日本各地で推進されるであろう再生事業のモデルとなることを目指した釧路湿原での再生であろうかと思っています。今後の具体的な事業展開においても、情報公開と透明性確保が必要です。

## 第5章 「2. 河川環境の保全・再生」について

河川の再生工事や復元工事は、自己目的ではなく、釧路湿原の良好な自然環境を維持し、復元することが目標です。．．．．． p23(2)に照らし合わせ、再生工事は現在の自然環境にマイナスにならない手法を取り入れて実施すべきあり、計画の中断、見直しや中止を含んだ実施計画であるべきです。．．．．．

現状の評価や診断がなければ、目標を達成する科学的方法も作成できない。．．．．．まず、現状評価を十分に行うべきであると考えます。

蛇行再生は人工的に作られた環境における独自の生態系を破壊する可能性があり、代替水域を必要とする場合もある。またすべての蛇行再生を行うべきではなく、その選定は慎重に行うべきである。

．．．．．サケの天然遡上が動物や森林にとって非常に重要であることが指摘されています。．．．．．

ダムの存在やその数は、河川の連続性の問題だけではなく、流砂量や水循環その他多くの問題と関連してくると思われます。．．．．．